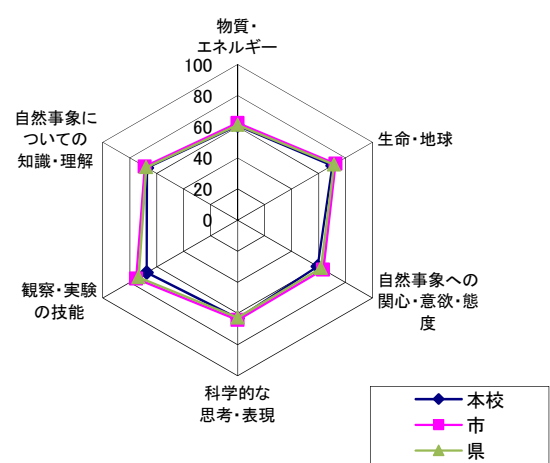


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.7	62.4	61.1
	生命・地球	70.2	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	59.4	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	63.1	64.1	62.6
	観察・実験の技能	67.4	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	67.3	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県の平均とほぼ同じ。 ○「物のあたたまり方」についての問題では、あたためられた空気の動きについての設問に対する平均正答率は61.8%で、県の平均より9.3ポイント上回っている。 ●水をあたためると体積が大きくなることを問う設問では、平均正答率が65.7%で、県の平均より7.5ポイント下回っている。	・「水のすがた」や「物のあたたまり方」「電気のはたらき」の問題では、平均正答率が7割に届かないものが多く、基礎的な知識の定着が不十分であることが分かる。また、問題が進むにつれ無回答の割合が増えていることから、最後まで終わらなかった児童がいたと考えられる。定期的に復習する機会を設け、問題に慣れさせたり生活経験と結び付けて考えさせたりすることで、知識の定着と活用を図っていく。 ・領域に関わらず、記述問題の正答率が低く、無解答の割合が高くなっている。授業では、自分の考えをノートに記述したり発表したりする機会を増やし、まずは表現することへの抵抗感を減らしていく。また、考察をまとめる際には、キーワードとなる言葉を落とさないようにまとめさせ、知識の定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ○「天気のようにと気温」の問題では、折れ線グラフの気温の変わり方から天気を推測する設問に対する平均正答率は97.1%で、県の平均より5ポイント上回っている。また、「自然の中の水」の問題では、自動車の窓が曇る理由を推測する設問に対する平均正答率は67.7%で、県の平均より9.3ポイント上回っている。 ●「天気のようにと気温」の問題では、気温を正しく測る設問で平均正答率が53.9%と低く、県の平均より17.1ポイント下回っている。また、「電気のはたらき」の問題では、電流について問う設問に対する平均正答率が34.3%と低く、県より16.6ポイント下回っている。	・気温の測り方や星座早見盤の使い方などの問題で正答率が低いことから、学んだことを忘れてしまった児童が多いことが考えられる。家庭とも協力しながら、学習が終わった後も気温を測ったり星座を眺めたりする機会がもてるよう声をかけていく。